

188年

中平五年（漢）

皇帝

劉宏（漢靈帝）

皇后

何氏（諱某・南陽宛県）

三公

太尉：曹嵩(前大司農・187~188) 樊陵(前永楽少府・188) 馬日?(前射声校尉・188~189)

司徒：許相(前司空・187~188) 丁宮(前司空・188~189)

司空：丁宮(前光禄勳・187~188) 劉弘（前光禄勳）

その他の要職

太僕：??《後漢書劉焉袁術呂布列劉焉》

大司農：

光禄勳： 劉弘

衛尉：董重

少府： 董卓（就任せず）

宗正：劉虞《後漢書劉焉袁術呂布列劉焉》

大將軍：何進（前河南尹）

車騎將軍：何苗（前河南尹）

票騎將軍：董重（衛尉）

地方官

幽州牧： 劉虞《後漢書劉焉袁術呂布列劉焉》

并州刺史：張懿（死亡）

益州刺史：?儉（死亡）

豫州牧：? ??（188~189）《後漢書劉焉袁術呂布列劉焉》

益州牧： 劉焉（監軍使者・188~）《後漢書劉焉袁術呂布列劉焉》

主な事件

- ▶ 春正月、休屠各胡が西河郡を寇略し、郡守の邪紀を殺す《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 丁酉、天下に大赦する《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 二月、流星が紫宮に有った《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 黄巾餘賊の郭太等が西河郡白波谷に蜂起し、太原郡・河東郡を寇略する《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 三月、休屠各胡が并州刺史の張懿を攻め殺し、南匈奴左部の胡を合し、その単于を殺す《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 夏四月、汝南葛陂（宋代の豫州新蔡県の西北）黄巾が郡県攻没する《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 太尉曹嵩が罷め、永楽少府の樊陵が太尉となる《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 六月丙寅、大風《後漢書孝靈帝紀》

太尉樊陵が罷める《後漢書孝靈帝紀》

- ▶ 益州黄巾の馬相が益州刺史の?儉を攻め殺し、天子を自称する。また巴郡を寇略し、郡守の趙部を殺す。益州從事賈龍が馬相を撃ち、之を斬る《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 郡国の七で大水《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 秋七月、射声校尉の馬日[石单]を太尉とす《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 八月、初めて西園八校尉を置く。注に引く、楽資の山陽公載記に曰く、小黄門の憲*磧を上軍校尉に、虎賁中郎将の袁紹を中軍校尉に、屯騎校尉の鮑鴻を下軍校尉に、議郎の曹操を典軍校尉に、趙融を助軍左校尉に、馮芳を助軍右校尉に、諫議大夫の夏牟を左校尉に、淳于ケイを右校尉に任じた。およそ八校尉を憲*磧が統べた《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 司徒の許相が罷め、司空の丁宮が司徒と為す。光禄勳で南陽の劉弘を司空と為す《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 九月、南匈奴の单于が叛き、白波賊と合して河東郡を寇略する。中郎将の孟益に騎都尉の公孫讚*を率いさせて漁陽の賊張純等を討たす《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 冬十月、青州・徐州の黄巾賊がまた起こり、郡県を寇略する《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 甲子、皇帝は無上將軍と称して平樂觀（洛陽城の西）において兵を訓練する《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 十一月、涼州の賊王國が陳倉を囲む。右將軍の皇甫嵩が之を救う《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 下軍校尉の鮑鴻が葛陂黄巾を討つ《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ 巴郡の板楯蛮が叛く。上軍別部司馬の趙瑾が之を平定する《後漢書孝靈帝紀》巴郡?巾の賊が起ち、故にまた板楯蛮は叛き城邑を寇掠。西園上軍別部司馬趙瑾を遣わして之を平定する《後漢書南蠻西南夷列伝》
 - ▶ 公孫讚*は石門において張純等と戦い、大いに之を破る。注に引く、時に烏桓が叛き張純等は薊中を攻めた。故に公孫讚*は之を追撃した《後漢書孝靈帝紀》
-
- ▶ この年、刺史を改め、牧を新たに置く《後漢書孝靈帝紀》
 - ▶ この年、董皇后は兄の子で衛尉・脩侯の董重を票騎將軍と為す《後漢書皇后紀孝仁董皇后》
 - ▶ 中平五年、董卓は徴されて少府となる。しかし吏士は左將軍の皇甫嵩に属することになる。董卓は行在所に参内して上言し、吏士が恩に報いんと車を遮り進めないとして勅命を拒んだ。《三国志魏書董卓伝に引く靈帝紀》

誕生者

死没者

[PAGE TOP](#)

[187年 <<](#) [>> 189年](#)